

統計不正指摘後の対応

「厚労省の判断待った」

総務省・西村統計委員長

厚生労働省の毎月勤労統計の不正を昨年12月に指摘し、一連の統計不正問題が発覚するきっかけをつくった総務省の西村清彦統計委員長が、12日の衆院予算委員会に参考人として出席した。当時の対応について野党側に問われ、「まずは厚労省の判断を待とうと判断した」と答弁した。▼総合4面■焦点採録

衆院予算委



衆院予算委員会に出席する総務省統計委員長の西村清彦委員長(左)。右は厚労省の大西康之前政策統括官。12日午後、松本俊博撮影

毎月勤労統計 四つの「なぜ」

- 18年1月 算出方法を変更。04年から続く東京都分の不正な抽出調査のデータ補正をひそかに開始
▶なぜ公表しなかった?
- 17年7月31日 大西氏が就任。前任者からの引き継ぎは「今、落ち着いている」のみ
▶なぜ引き継ぎがなかった?
- 17年9月28日 買金データの高い伸び率に、専門家から疑問続出
▶なぜその後も厚労省は「データ補正」を明らかにしなかったのか?
- 18年12月13日 西村氏が東京都分の不正調査の問題を指摘。大西氏の上司への報告は5日後
▶なぜ報告が遅れた?



大西康之
前厚労省前政策統括官



西村清彦
統計委員長

西村氏は政府の基幹統計をチエックする統計委員のトップ。昨年12月13日、厚労省から毎月勤労統計の東京都分で行った不正な抽出調査ではなく抽出調査をしていただけと告げられ「重大なエラー発生区」を指摘した。これが、統計不正が次々と発覚する端緒となった。だが、当時の西村氏の対応が十分だったかが、12日、厚労省は毎月勤労統計の補正値を修正せずに発表し、事態は新年度予算案の組み替えにも発展した。西村氏は「この段階では(不正について)基礎的な

情報になかった。まずは厚労省側の判断を待とうと判断した」と説明した。当時の対応について、「経緯を調べるように指示した。それ以降(厚労省から)報告を受けていない」と野党は、西村氏がこの日午前から予算委に出席することを留意していたが、西村氏は「個人的な理由(与党側の説明)で午前は欠席。午後3時からの出席となり、西村氏への質問は奥野氏の約6分間だけだった。

公表値のデータ補正作業

「前任者から説明なかった」

厚労省・大西・前統括官

毎月勤労統計の焦点は、厚労省が組織的に不正を隠していたかどうかだ。野党は8日に続き、厚労省の統計部門を束ねた大西康之・前政策統括官(1日付で大臣官房付に異動)を招致した。大西氏は不正調査の事実を昨年12月13日に把握しながら5日間、上司に報告しなかった理由を「状況について把握しきれなかった」と述べた。厚労省は不正調査による公表値を本来の値に近づけるため、昨年1月分からひそかにデータ補正を始めていた。大西氏は同7月に就任。立憲民主党会派の小川淳也氏が「前任者から引き継ぎは本当になかった

「前任者」の参考人招致要求

「前任者」は酒光・章氏(昨年7月に辞職)。データ補正がひそかに始まったのは酒光氏が政策統括官だった時期だ。データ補正を始めた理由や、補正の事実を長く公表しなかった理由について酒光氏は「酒光氏は統計不正を知っていたのに、明示的に引き継ぎをしなかった。暗黙のうちに隠蔽する気があった。危機管理能力の欠如があった。いずれか」と指摘。酒光氏や担当

「にやるんですか」。指令員らは戸惑った。

てんてん